

住まいと暮らしを考える
オンラインコミュニティ

UXD KURASHI LAB.

第2期レポート

2021年1月～3月実施

はじめに

“New Norm-新しい生活様式”へのシフトが進む中、これからの住まい・暮らしの在り方はどう変わるのか？私たちは、複雑な環境要因の中で変わる消費者のニーズを捉えるべく、住まいや暮らしに特化して話せるオンラインコミュニティ“UXD KURASHI LAB.”を開設し、メンバーの興味・関心に寄り添った情報や体験機会を創出することによる行動変容を調査してまいりました。本レポートは、2021年1月～3月に行われた第2期ラボメンバーの関心や動向を調査したレポートとなります。

調査概要

調査対象者 東京・千葉・神奈川・埼玉・大阪・京都・兵庫の7都府県の在住者で、住まいや暮らしについて興味のある25～45歳の男女を対象に一般公募の上、113名を選出

調査期間 2021年1月25日～4月2日にオンラインコミュニティに参加してもらい、活動開始前後、活動中の行動や変化をアンケート、インタビュー、座談会などにより調査

UXD KURASHI LAB.とは？

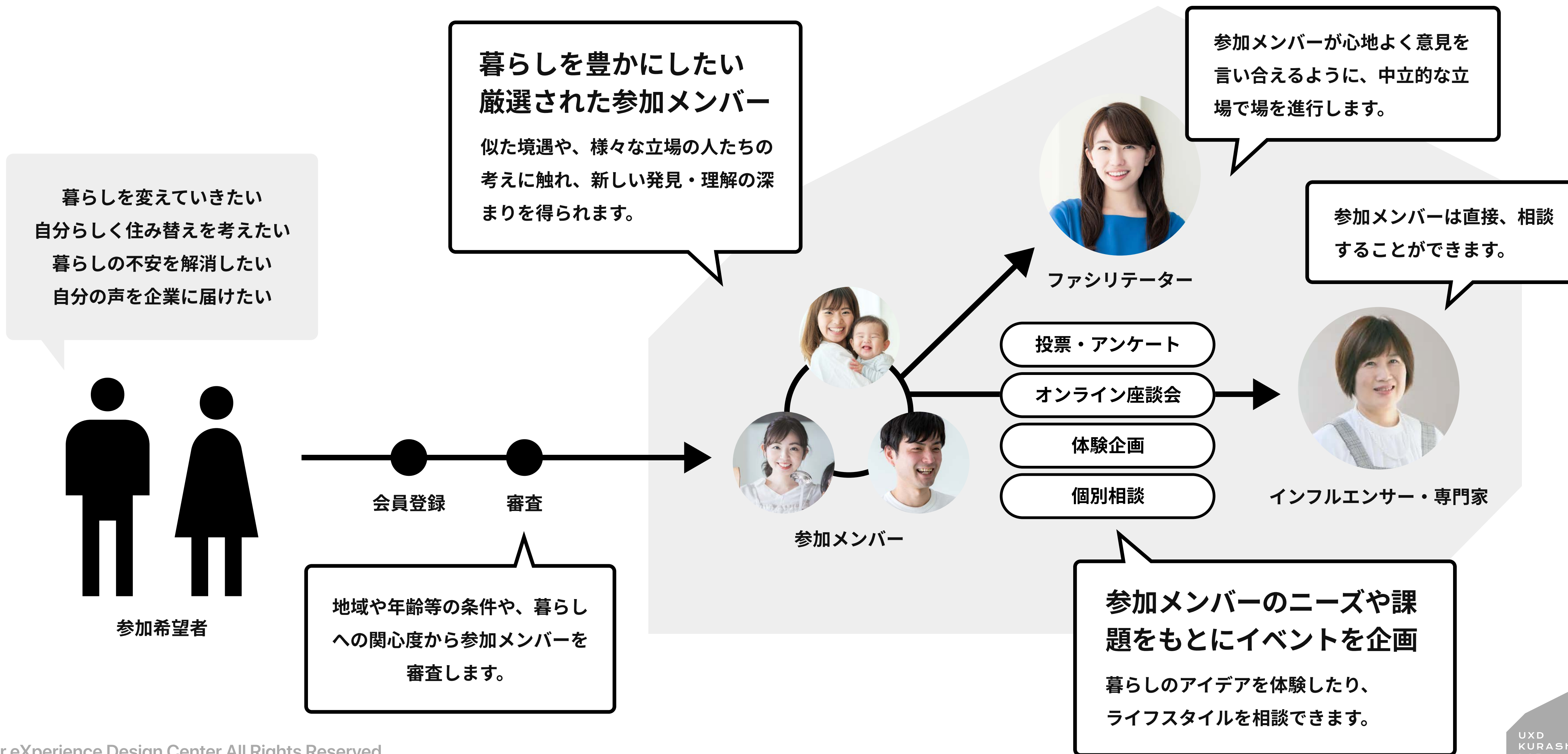
多様な価値観の中で「正しい暮らし」なんてない時代。
一人で考えるのではなく、対話や体験を通じて
新しい視点を得ること、本気で相談できる人と考えること。
そのような、みんなで答えを見つけていく機会が必要です。

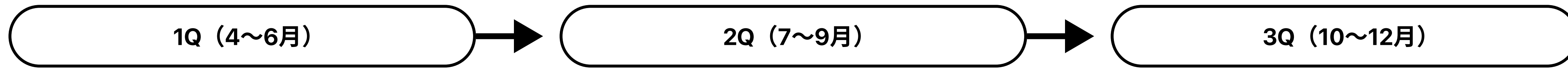
UXD KURASHI LAB.は、

**消費者の課題意識を知り、
新たな価値を創造する場**として

活動、運営しています。







市場調査

緊急事態宣言が出され
感染症の不安が強まる



消費者の「住まい」や「暮らし」に対する価値観がコロナを機に変化

トライアル

緊急事態宣言は解除され
「新生活様式」へシフト



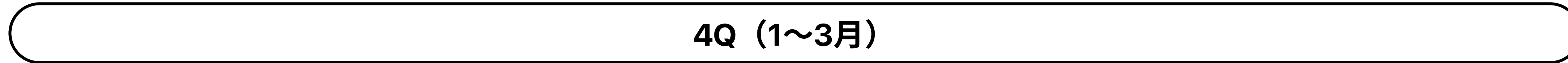
オンラインで、住まいや暮らしをアップデートする情報や体験の機会をモニター実施

第1期

「新生活様式」が徐々に暮らしに定着し始める



UXD KURASHI LAB.をリリース。
ラボメンバーを一般公募してイベントおよびアンケート調査を実施



第2期（本調査期間）

緊急事態宣言が再度出され、長期化の様相を呈し始める

新生活様式が常態化する中、ラボメンバーによる体験とディスカッションを通じ、「居心地のいい空間」「快適な暮らし」とは何か、消費者視点で捉えなおすことを目的に実施。

50.0%



したい暮らし

探索中の方

結婚や子育て、子供の独立など、ライフステージの転換点にある方。どんな暮らしをしていくか、広く情報を得たいフェーズ。

34.1%



したい暮らし

検討中の方

住み替え予定が決まったり、具体的な検討を進めている方。理想の暮らしをどう実現するか、比較検討したいフェーズ。

5.9%



したい暮らし

実践中の方

新たな生活を開始した方や、当面、住み替えの予定はない方。大きな変化はないが、暮らしをよりよくするための工夫をしたいフェーズ。

20代後半～40代前半のライフステージに変化がある方のうち、住み替えなど具体的に検討している層は34.1%、これからの暮らしをどのようにしていくか広く情報を得たい方が過半数。

実施概要

13の企画を実施。ゲストの住まいをオンラインで中継し、ラボメンバーの質問に答える形で進行することで、リアルな暮らしの中から、生活者としての知恵と工夫を学んだ。

住まい空間



TOKOSIE

印象アップの収納術



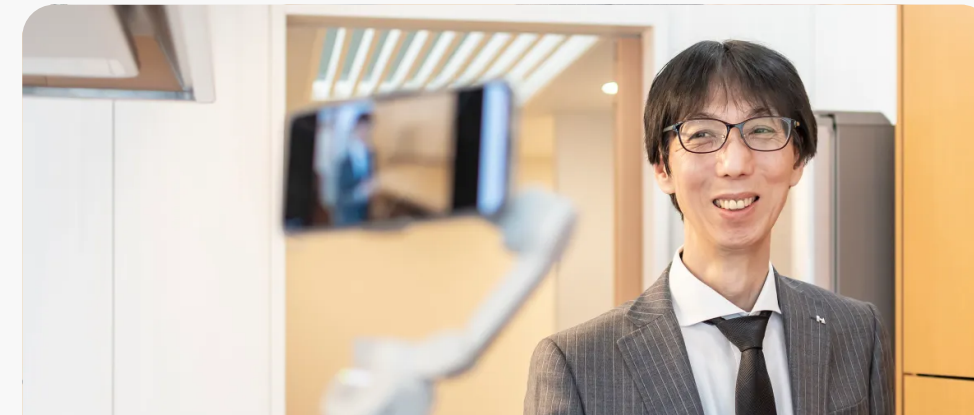
TOKOSIE

ディスプレイデザイナーの空間アイデア



TOKOSIE

リモートワーク向けの空間改造ノウハウ



空間を有効に使うための賢い家具の探し方

食・子育て



アイスム ☺

自炊を楽しむサロン



アイスム ☺

おうちで本格イタリアン！



アイスム ☺

子育てサロン

TOKOSIE : <https://tokosie.jp> / アイスム : <https://www.ism.life/>

13の企画を実施。ゲストの住まいをオンラインで中継し、ラボメンバーの質問に答える形で進行することで、リアルな暮らしの中から、生活者としての知恵と工夫を学んだ。

ライフハック



TOKOSIE

IoT家電の魅力をアドバイザーに聞く！

暮らし・ライフスタイル



移住2.0～「出会い」が生むイノベーション



地方で暮らす！働く！～北海道栗山町～

特別企画「3.11防災特集」



TOKOSIE

暮らしに溶け込む防災グッズ



アイヌム

防災クッキング



家の防災～マンションの防災って？

TOKOSIE : <https://tokosie.jp> / アイヌム : <https://www.ism.life/>

「非常用持ち出し袋はあるけれど、被災した場合の食事はどうすればいいの?」「電気・ガス・水道が止まったら、家で何が作れるんだろう?」オンラインで、それぞれの家庭から参加。**小さいお子様のいる家庭でも普段から防災意識を高められること**を学んだり、先生と一緒に**災害時に役立つレシピ**を実践。3品も作ることができ、驚きの1時間でした。



子供も一緒に参加できたこと。先生が明るくて色々反応してくださったこと。短時間で3品もできるのが始め信じられなかったのですが、美味しくて驚きました。身体によいものを使用しているし、災害時には美味しいは諦めることだと思っていたのですが、そうではないのだなと実感できました。あとは三つの災害ごっこの話は本当に役に立ちました。特に伝言ダイヤルはすぐ練習します！（40代女性）

はじめて知る内容だった。パネラーの皆さんのお話や、参加している風景もよかったです。実際に自分も練習してみたいと思いました。危機意識をふだんからもつということや、家族や友達同士でこのようなzoomを介して防災の意識や練習をするのもよいと思いました。（40代女性）

「キッチンが狭くて料理がしにくい」「食材があるのに料理する気力がないとき、どうしたらいいの？」どこの家庭でも同じようなつくりのキッチンですが、家族構成や生活スタイルにフィットせず、イライラすることも。それぞれの**キッチンの悩みを共有しつつ、固定観念を破った思い切った使い方**に目から鱗。「こうでなければ」はない。自分の暮らしに合った使い方を見直すきっかけに。



座談会といったスタイルで楽しみながら視聴できました。先生が最後に、今の課題として、誰かの為に作る事がストレスにといった話は一番私の気持ちに近く、わかってくれる人が居ただけで心が軽くなりました。本当にありがとうございました。また先生のお話色々聞きたいです。（40代女性）

参加者（パネラー）の皆さんとディスカッションできたのが楽しかったです。また、他の方の困りごとや質問を聞いていて参考になることが沢山あったのも良かったです！（30代女性）

「興味はあるけど実際に使うとどうなんだろう？」次々に出てくる新商品。**いいなと思っても使いこなせない、何がどう違うかがわからず手を出せない**ことも。自宅になんと家電を150台も所有しているというゲストのお宅に訪問し、普段の暮らしの中でどのように使っているかを見せてもらいました。**使いこなすところまで暮らしは豊かになる。**



奈津子さんの家の中を見せていただいて、様々な家電について紹介させていただき、参考になりました。前からほしかったもの、さらにほしいもの（電動ハブラシなど）が増えて今後の生活に役立てたいです。（40代女性）

奈津子さんが実際に使用されている家電を紹介して頂き、使用感や複数ある場合の使い分け方等を教えて頂けたこと。スマートスピーカーの使い分け、とても参考になりました。（30代女性）

「モノがあふれてどうしてもスッキリ見せられない」「こどもの作品などをうまく飾りたい」空間を活用する方法は、収納だけではない。目線を考えて「飾る」ことで、居心地のいい空間に変わる。オンラインなのに、あたかも先生のお宅にお邪魔したかのように隅々まで見せていただき、「片づける」だけではない、「魅せる」空間づくりのヒントをいただきました。



素敵なお家でした！それでいてみつまさんがとても自然体で柔らかい雰囲気なので、聞いていてふと自分もディスプレイに拘ってみようかな？と構えずにイメージを抱くことが出来ました。（30代女性）

実際の先生のご自宅をいろいろ見せていただけたのは面白かったですし、そんなにキチキチ片づけなくてもいいんだなと安心できました。センスはお勉強かなと。本当に楽しかったです（40代女性）

先生の素敵なお宅を立体的に見せていただくことができたこと。私はいま賃貸ですが、新築でなくてもできるアイデアをシェアいただき、希望が持てました」（40代女性）

消費者は、より自分に近い 「生活者視点」のリアルな 情報を求めている。

- 参加している方々の関心、興味から皆さんがどう思いながら暮らしているのか、暮らしの視点が参考になりました。（40代女性）
- お家ツアーで他のパネラーさんの質問が私だと考えつかない質問でなるほどと思った。お家もこだわっている所を聞きながらみると自分の家でもやってみようと思った。（30代女性）
- 収納はわかっていたようで自分の住まいに置き換えることができることがまだまだあると感じました。リアルな生活を見てやってみたいと素直に思えました。（40代女性）
- 日々の暮らしの中で、それぞれが当たり前に行っていることも、他の人にとっては、新しい気づきになること、が価値だと思います。チャットなどでの情報交換でみんな楽しく気づきを得られている、収穫を得ている気がしますね。（40代女性）

オンラインだからこそ、 普段は接点のない人や情報に 触れ、刺激となる。

- 情報交換ができたことで気分も行動も前向きになりました。またいろいろなイベントで新たな気付きや興味もわきました。(40代女性)
- ウェビナー形式以外のオンラインイベントへの参加経験が乏しかったので、新しい(これからも続きそうな)集い方を知ることが出来ました。講師の自宅や住まい方を垣間見ることが出来、会場で話だけ聞くより参考になりました。(40代女性)
- ゲストの方たちの美しい部屋を見て断捨離を本格的にやろうと思った(30代女性)
- 国立のシェフによるクッキングイベントも、最初はハードルが高いと思っていたような料理でもみんなと一緒に進めたことで、気軽に楽しく感じることができハードルが下がりました。(40代女性)
- いつもと違う人との関わりは刺激的でした(30代女性)

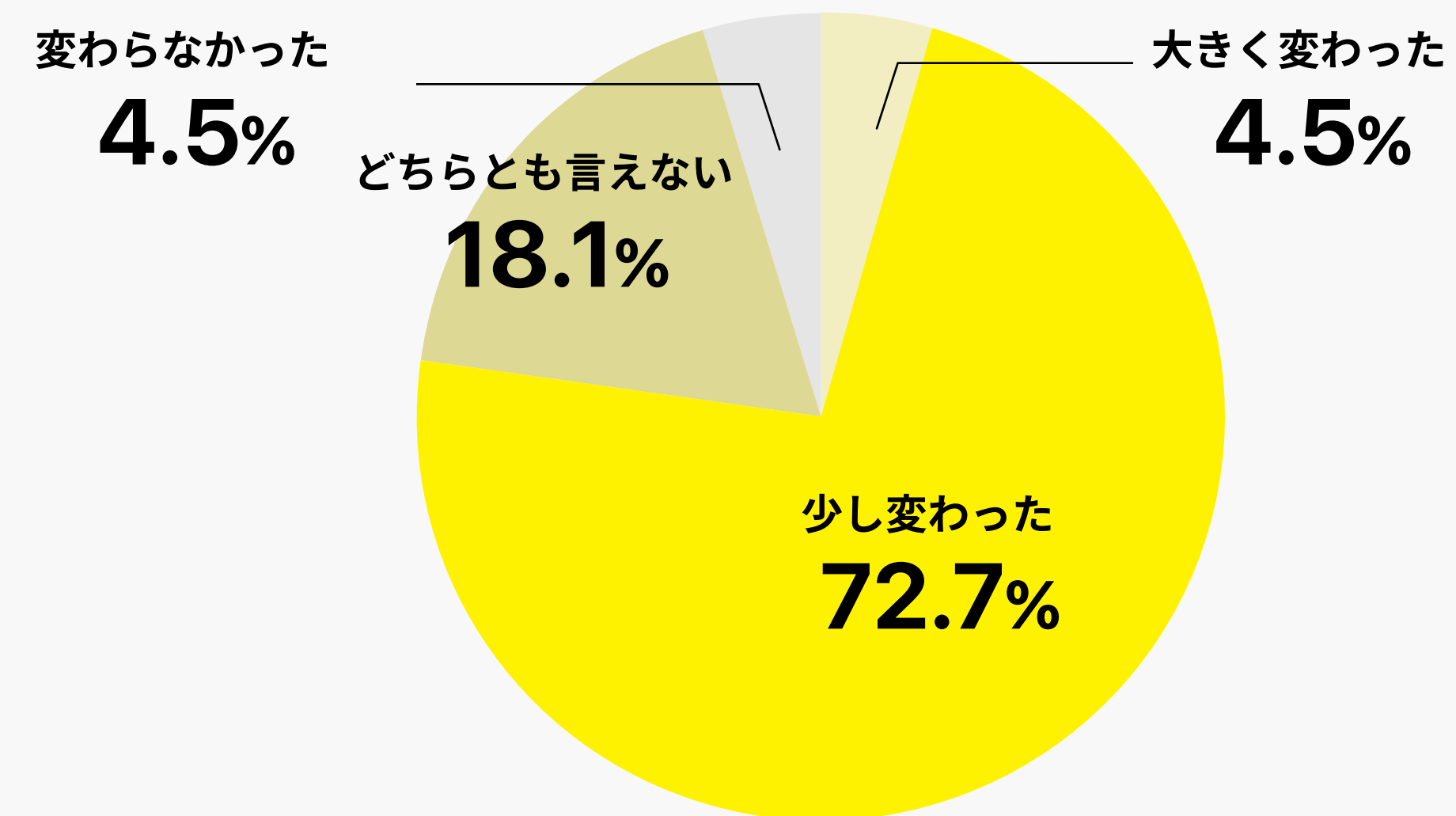
暮らしは無限の可能性。 考え次第で、いつでも いくらでもアップデートできる。

- UXD KURASHI LABに参加するまでは、住まいや暮らしを整えることに興味はあっても、自分の理想の暮らしが曖昧で深く掘り下げたことはありませんでした。今回参加してアンケートに回答する中で、自分の理想や現状の良いところ悪いところ、今後どうしていきたいか、が少しずつ明確になりました。（30代女性）
- 鍵の開け閉めも家電でということを考えられたりとか、自分では考えたこともなかったし、ラボがなかったらそんな考えをよぎることすらなかったと思う。（40代女性）
- 参加するまではIoT家電といえば、スマートスピーカーやお掃除ロボット、調理家電のイメージが強く、家事の時短が一番の魅力だと思っていたのですが、照明や窓型ディスプレイ等を紹介して頂いて、暮らし全体のQOLを向上させてくれるものなんだな、と認識が変わりました。（30代女性）
- IoTも最初は全然関係ないと思っていたけれど、参加してみたら驚きがとてもあった。イベントはオンラインにも関わらず、どれも「参加している」感があって、その場で質問させてもらったり、一体感があった。本当に参加して良かった。（20代女性）

ラボを通じて得たユーザーの意見は、消費者の生の声。

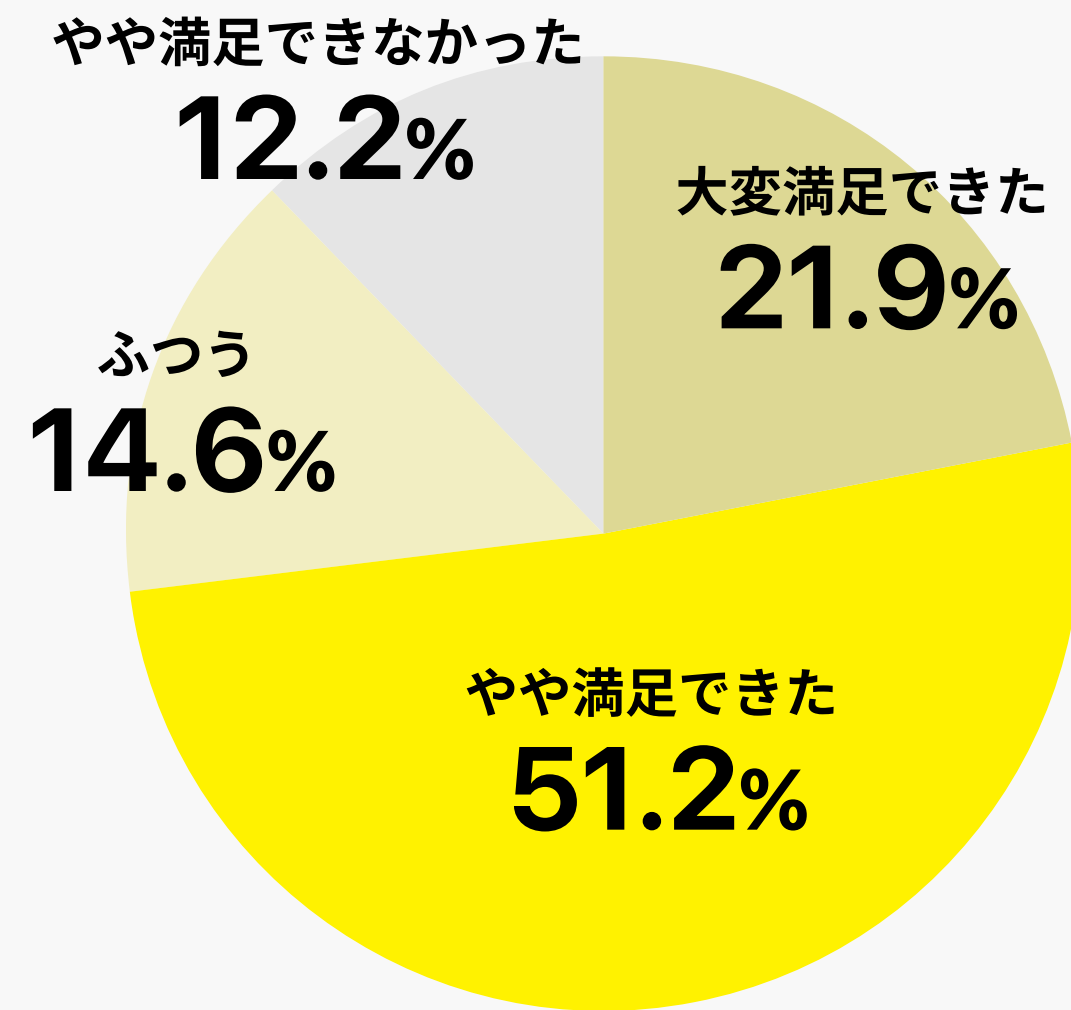
- ゲストの方だけでなく、私も悩んでいる方にアドバイスできたとは！（30代女性）
- 「生活者の一員」としての自分の意見が誰かの参考になるという気づきが得られた。そして、自分も他の参加者の話を聞いていいなと思うことがたくさんあった。何かの専門家という肩書がある人の説明しか価値がないと思っていたが、そうじゃないんだなと。生活者の一員として発信することに価値があり、それをしたいと思った。（40代女性）
- 大したスキルは持っていないけど実は他の人にとって役に立つ人ってたくさんいると思っています。そういう人は専門家のように「これができます」と開示していないけれど、とても役に立つ。そういう役に立つような情報を発信できる場所があるとすごいいなと思っていました。（40代女性）
- 参加メンバーのどんな変化があったのかは気になる。イベント後に何をしたかをメンバーから発信する場があったらいいのでは。ラボからではなく参加者からの事後発信とか。（40代女性）

暮らしや住まいに対する考えの変化



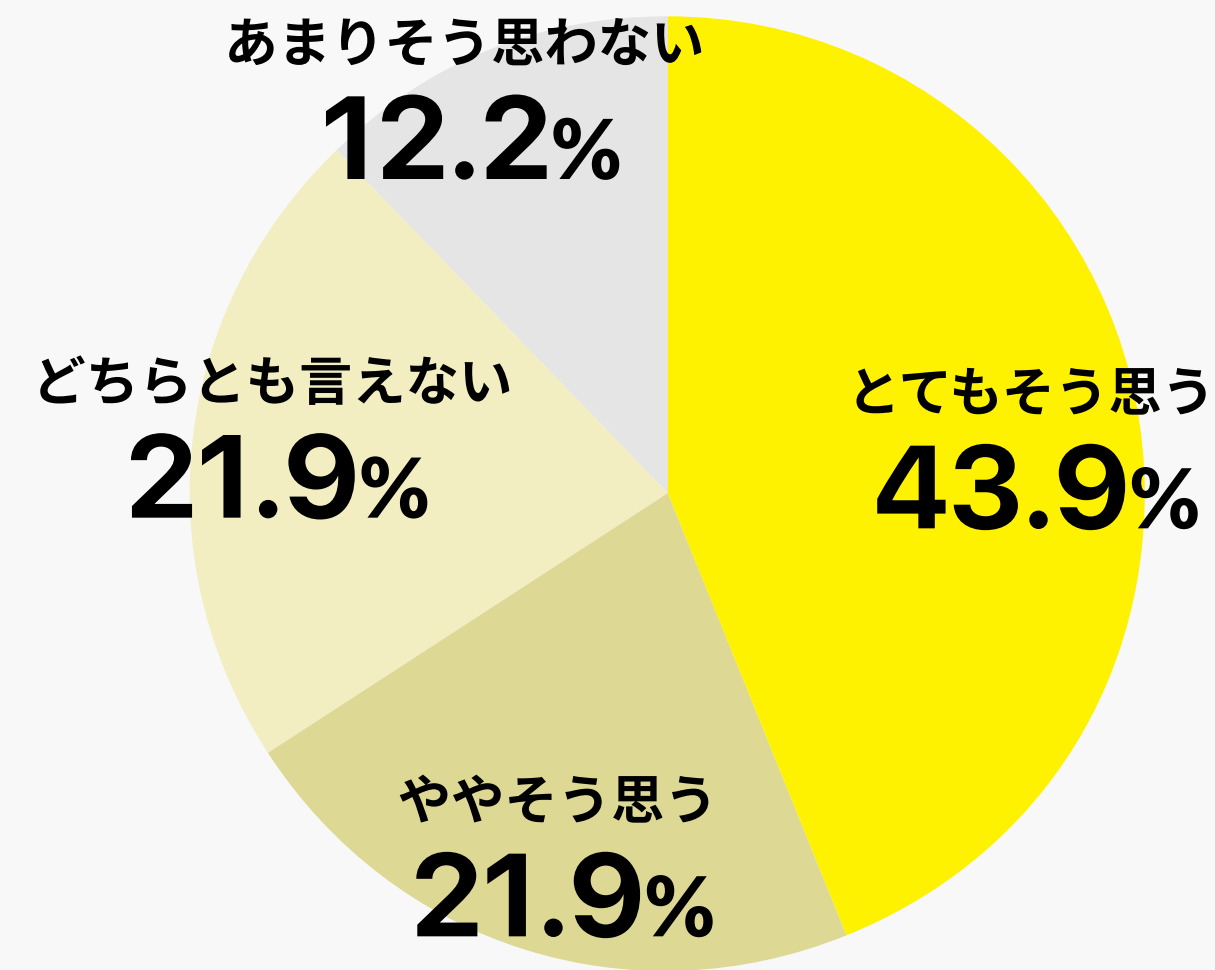
ラボを通じて、住まい・暮らしに対する
考え方が変わった人は、**全体の77%**

満足度



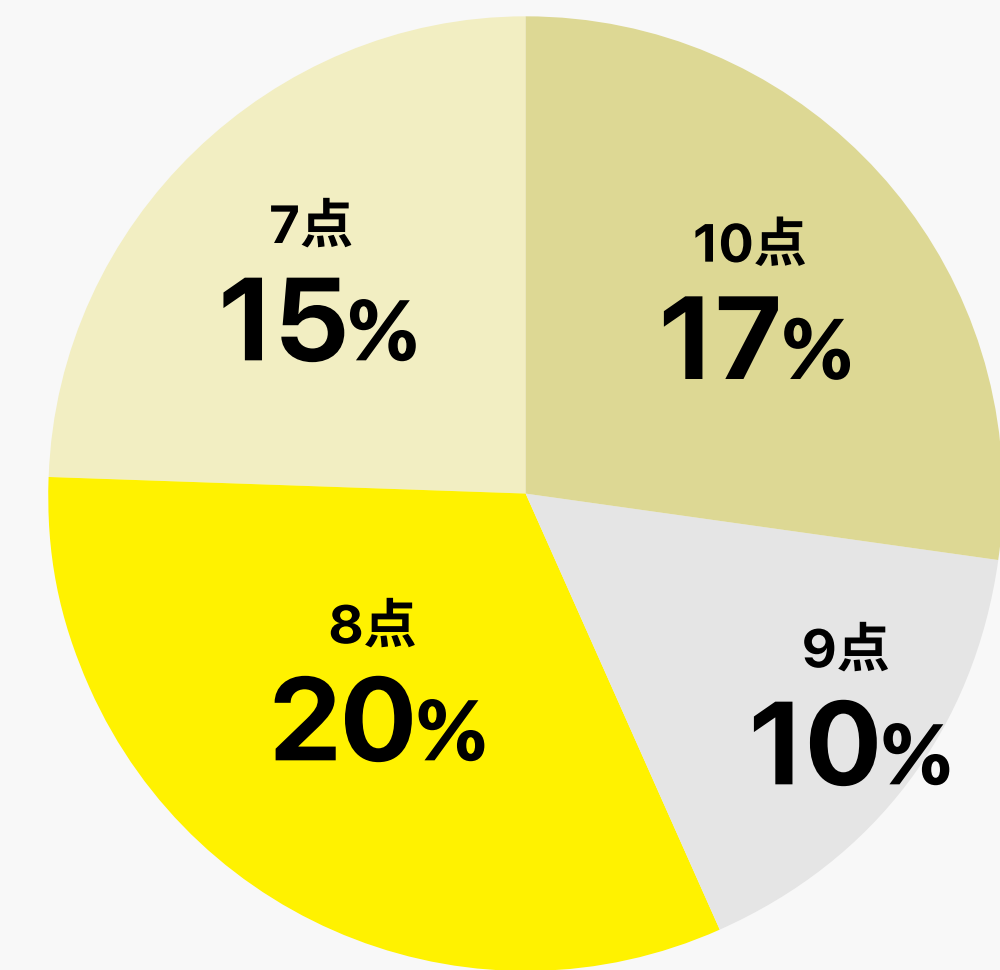
72%
が満足したと回答

今後も参加し続けたいと思うか



66%
が継続したいと回答

知人へのおすすめ度 (10点満点)



62%
が知人に勧めたいと回答

暮らしの和

UXD KURASHI LAB.は「暮らしの知」をもとめ、探索と深化を進めてきました。

たくさんの人と出会い、知恵を交換できたことで、あらためて発見することができました。

暮らしには正解がないこと。無限にアップデートできること。何気ない生活の中にワクワクを取り入れられること。

たどりついたのは「暮らしの和」でした。

コロナ禍だからこそ、暮らしの細部にみんながハッと、

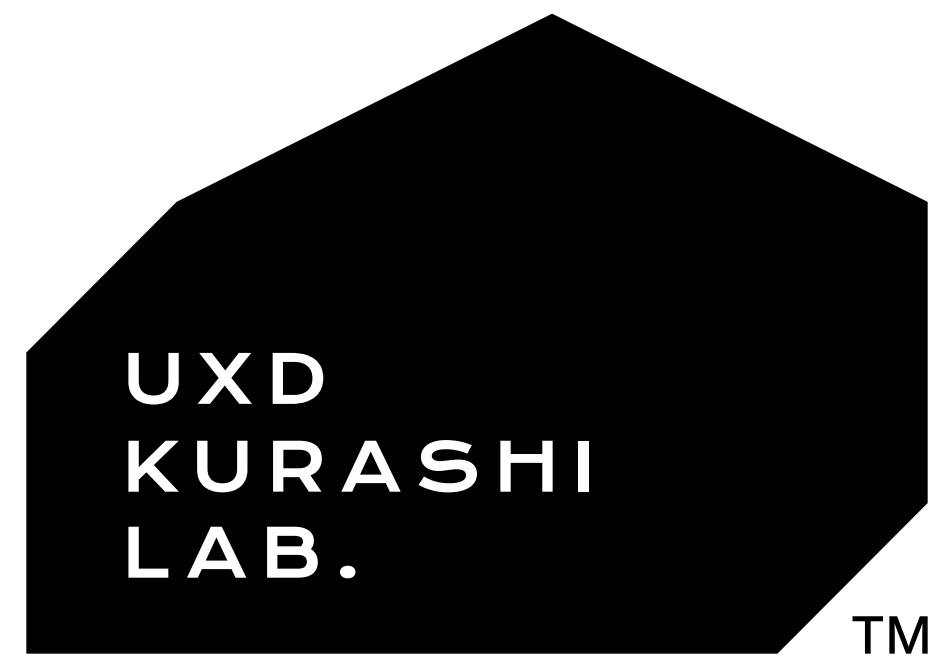
オンラインだからこそ、みんなが集まり、思いがけない刺激にめぐり会えました。

それは、家々の知恵の集積であり、穏やかな対話の中で足し合わされていったものでした。

UXD KURASHI LAB.は、暮らしを営み工夫を重ねるメンバーの声に気づかせていただきました。

生活者の「暮らしの和」を育み、社会に価値を還元できるように、

UXD KURASHI LABは挑戦を重ねてまいります。



[お問い合わせ] <https://uxd-kurashi-lab.com/contact>